

# 新聞を手がかりに現代史を読み解く

—地理歴史科「歴史総合」の授業実践を中心に—

教諭 森田 泰充 教諭 中谷 良

## 1. KOYO科学の大輪祭「KOYOの力を育む授業研究会」（公開授業） 「ロシア・ウクライナ戦争」から学ぶ

▼授業のようす

- ① 教科等横断型授業 : 歴史総合（「日本史探究」×「世界史探究」）
- ② 日時 : 令和8年2月5日（木）第5・6時限（100分）
- ③ 対象 : 第1学年D組（普通科）40名
- ④ 教室 : 1D：HR教室（3棟1階）
- ⑤ 授業担当者 : 森田泰充（地理歴史科「日本史探究」担当）  
中谷良（同「世界史探究」担当）
- ⑥ 使用教科書 : 明解『歴史総合』（帝国書院）  
日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）  
世界史探究（実教出版）
- ⑦ 学習単元 : 歴史総合 4部 グローバル化と私たち  
3章 グローバル化のなかの世界と日本（教科書184頁）



- ⑧ 単元の目標
  - ・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- ⑨ 指導計画（5限～6限）

段階	時間	学習内容	指導上の留意事項
導入	10分	<p>（発問） “ウクライナ戦争を第三次世界大戦にしないためには何が必要か。”</p> <p>(1) ウクライナ戦争の情報に接してなぜ戦争が起こったと感じていますか。 (2) 今のあなたに何ができるか。または、できないか。</p>	<p>※既に起きた事態と現実にかけている事態を対比的に観察しながら今後いかなる選択肢と対処法がありうるのか、を考えさせる。ここでは、「2022年2月から続くウクライナ戦争」と「1931年9月の満洲事変」を題材に考えていくことを提示する。</p> <p>※前時に提出された各自の意見をもとに考えさせる。（主体的な取組を促す。）</p>
展開1	40分 I (20分)	<p>(1) ウクライナの地理 (2) キエフ公国の成立 (3) 諸大国の興亡 (4) ロシアとオーストリアによる支配 (5) ソ連による支配 (6) ソ連崩壊後</p>	<p>※「ウクライナ戦争」を「現代的な諸課題」と捉えて探究する活動を行うには現在の視点のみで一面的に捉えることがないよう歴史的経緯を踏まえることが求められる。</p> <p>*年表を通じて考えさせる。</p>
	II (20分)	<p>(1) 「満洲事変」（当時の人々の意識） (2) 「満洲事変」はなぜ起こされたのか。 (3) 「満洲事変」を計画した主体 (4) 連盟脱退まで (5) 戦争の時代へ</p>	<p>※世論の動向には情報操作が大きく作用しており、柳条湖事件が関東軍の策謀であったという事実が日本国民に知らされたのは戦後になってからということを知らせる。</p>
展開2	グループ 討議 (10分)	<p>(1) 5時間目の授業で気付いたこと。 (2) ウクライナ戦争を第三次世界大戦にしないために、何ができるのか、また、できないのか。</p>	<p>※各自が、前時までに集めた「ロシア・ウクライナ戦争」の新聞記事を参考に、グループ内で、自分の意見を発表し、他者の意見から新たな気づきを得る。</p>
	グループ 発表 (30分)	<p>(1) 1班から8班の代表者が発表する。 (2) 各班3分以内とする。</p>	<p>※ワークシートにメモをさせておく。</p>
まとめ	振り返り (10分)	<p>◇「ウクライナ戦争を第三次世界大戦にしないために、何ができるのか、またできないのか。」文章で表現しまとめさせる。</p>	

## 2. 成果（生徒の意見から）

まず、「ロシア・ウクライナ戦争」を教材として、取り上げはじめた令和7年12月に、次のような問いかけを生徒たちに投げかけた。

**◆ロシア・ウクライナ戦争の新聞記事を読んで、みなさんはなぜウクライナ戦争が起こったと感じていますか。**

（生徒のワークシートから）（\*生徒の記述のまま、その一部を表記した。）

- ・ウクライナにロシアが欲しい鉱産資源や他の珍しい資源などがあり、それが欲しくて、ウクライナを支配したいと考えたからだと思う。
- ・ウクライナのNATO加入をロシアがよく思わなかったから。
- ・宗教的問題・ウクライナがもともとソ連の一部だったことが関係ありそう。
- ・NATO拡大路線に対しロシアが警戒し、ウクライナの親欧米路線で対立したから。…他

次に、令和8年2月24日、開始から4年が経過した「ロシア・ウクライナ戦争」に関する各社の「社説」を読み、次のような問いかけを行った。

**◆令和8年2月24日で「ロシア・ウクライナ戦争」は4年が経過しました。各新聞社の「社説」を読んで、あなたが感じるところを書きなさい。**

（生徒のワークシートから）（\*生徒の記述のまま、その一部を表記した。）

- ・力で奪った土地の所有を認める拙速な合意は絶対に許されないという主張には深く共感した。寒さの中で電気や暖房を失い苦しむ市民の姿を思うと胸が痛み、大国の責任の重さと国際社会のあり方について真剣に考えさせられた。
- ・他国の人々が兵士として、戦争に参加していることを知って、いろんな国を巻き込んで「第三次世界大戦」になりかねないと強く思いました。
- ・ロシアがウクライナのインフラを攻撃している記事を読んで、衝撃を受けた。今もたくさんの方が苦しんでいるのだと思う。私は祖母をおととし亡くしました。初めての身近な人の死に未だに理解が追いついていません。「死者〇〇人」などと聞いてもあまりピンと来ないけど、その一人一人は私にとっての祖母のような大切な存在であると思うと、本当に悲しくて許せない気持ちで一杯です。
- ・ウクライナ側の被害に関する記事が多いが、ロシア軍の損失も大きく死者数が約120万人と知って悲しい気持ちになりました。
- ・各紙の社説を読んで、私たちが小学6年生から今までで4年間、普通の日常を過ごしている間、ずっとウクライナの人々は、極寒に耐え、停電や食糧不足にも耐えながら、ミサイルやドローンが来るのを恐れているという生活をしていると考えるととても胸が痛くなる。
- ・国際連合が機能していないので、また新しい機関を作って、新しい平和維持の安定を進めるべきだ。
- ・「強者が勝ち、弱者が屈服する世界を受け入れなければならないのか。断じて否である。」という新聞記事の意見に共感した。ロシアは強国だが、武力で従わせようとする姿勢は間違いだと思う。

## 3. さいごに（授業を終えて）

今回、「新聞を手がかりに現代史を読み解く」をテーマに「ロシア・ウクライナ戦争」の新聞記事を根拠に、探究学習を実施した。21世紀の現代に、まるで19世紀か20世紀のような戦争が起きるとは、私にとっても大きな衝撃を受けた出来事である。確かに、「ロシア・ウクライナ戦争」始まった4年が経過しその終結さえ見通せない現在、日々の歴史の授業の実践において、一連の歴史的事象の一つとして見過ごす訳にはいかない。私自身も日本史を専門的に学んできたが、それだけでは解決できない問題が現実問題として生徒たちの目の前にある。この現状のなかで、探究活動が展開できたことは極めて有意義であったと考える。